平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

別紙様式２

廿日市市立友和小学校の取組

研究テーマ
子どもの思いや考えを，引き出しゆさぶる授業を目指して
～　国語科「書く」活動の授業を通して　～

授業実践①（プラン）

◆第（２）学年（国語）科
単元名「～伝えたいことを手紙に書こう～“きらり☆”をつたえよう」
◆本時の目標

読み返す観点に沿って文章を推敲したり，友だちのよい所を見つけて伝えたりすることができる。

◆児童の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

学級全体の状況
書いた文章を読み返す際，表記や改行などの間違いに気付きにくい。

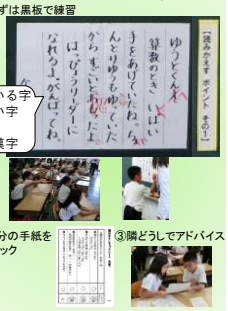
特別な支援が必要な児童の状況
Ａ児　授業に集中しにくく，言語指示だけでの理解が難しい。
Ｂ児　学習意欲にムラがあり，言語の理解や定着が難しい。

指導・支援のポイント
・単元の構成や授業の展開をスモールステップにする。
・手紙の書き方や推敲のポイントが分かるように視覚支援を取り入れる
・タイミングよく肯定的評価を行い，友だちと交流する場を設定する。

授業実践②実践の具体

スモールステップ

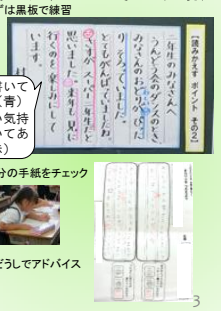
読み返すポイントその１（表記）
①まずは黒板で練習



抜けている字
まちがい字
、や。
習った漢字

②自分の手紙をチェック
③隣どうしでアドバイス

読み返すポイントその２（内容）
①まずは黒板で練習



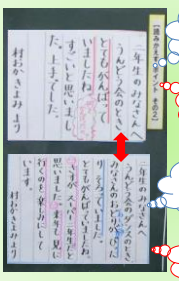
詳しく書いてあるか（青）
伝えたい気持ちが書いてあるか（赤）

②自分の手紙をチェック
③隣どうしでアドバイス

授業実践②実践の具体

視覚支援

よい例と悪い例を比較



何を頑張っていたのか分からないなあ・・。
あんまり気持ちが伝わってこない・・。
ダンスでぴったりそろったのがよかったんだね。
スーパー２年生という言業がうれしい！

発表時は教材提示装置で

必要のない所は隠して，集中できるように

授業実践②実践の具体

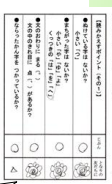
肯定的評価

机間指導のタイミング

指示の理解が難しい児童
→作業開始時に，内容や方法が理解できているかを確認

集中の持続しにくい児童
→作業途中で声かけ
アイコンタクト，
手のサイン等で頻繁に

「紹介さんぽ」やチェックシートで花マルを



立ち歩いてペアを見つけ，お互いの手紙を読み合いました。
集中の持続しにくい児童にも有効！

できていたら，友だちに花マルをもらいました。

授業実践③成果・課題

【成果】
- 単元構成や授業の展開をスモールステップ化し，視覚支援を取り入れたことで，すべての児童が見通しをもちやすく意欲的に学習することができた。また，推敲の仕方が分かり，読み返しのポイントに沿って推敲することができた。
- 読み返してはいても自力で間違いに気付けない児童も数名いたが，友だちどうしで推敲し合う活動を設定したことで，より確実に推敲することができた。
- 教師による積極的な肯定的評価や友だちとの交流の場を設定することで，学習意欲を持続させたり，自己有用感を育てることにつながった。

【課題】
- 読み返してはいても自力で間違いに気付けない児童に対しては，ヒントカードなど，机間指導の工夫が必要だった。

授業実践④今後の改善点

【今後の改善点】

- 本時のねらいを焦点化し，学習活動を設定すること。
- 全員が目標達成できるように，ヒントカードの工夫や机間指導での見取り・支援の方法を工夫すること。

普及・啓発①拠点教諭の取組

【廿日市特別支援学校 夏季公開講座「授業実践交流会」】

～通常の学級における「視覚化」を取り入れた取組～

作文の構成メモを「視覚化」

その時の様子や気持ちを整理するために棒人間や吹き出しを!

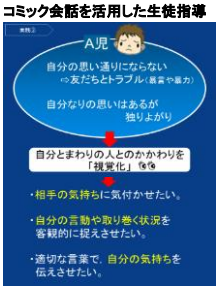
促音（小さい「つ」）の指導
～「多層指導モデルMIM」を活用して～

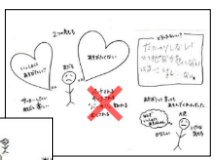
「視覚化」と「動作化」を取り入れた取組を紹介

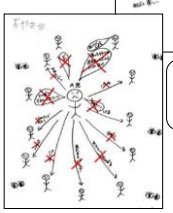
普及・啓発②拠点教諭の取組

【市プログレス研修（いじめ防止対策）】居場所づくりと絆づくりについて
【市内小学校の校内研修】「実態把握に基づいた指導・支援」について

コミック会話を活用した生徒指導







自分のやったことを客観的に捉え，相手の気持ちを考える

普及・啓発③拠点校の取組

【公開研究会】

特別支援教育の視点を取り入れた学習指導案

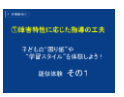
児童観
・実態とその要因を分析的に！

指導観
・特別支援教育の視点を入れて
　A学習規律・環境整備　Bスモールステップ化
　C視覚支援　D肯定的評価

・実態との一貫性をもたせて

【ホームページで紹介】

校内研修で活用した資料をホームページで紹介



今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	「視覚化」「スモールステップ」「肯定的評価」を取り入れた授業をすることで，書く意欲や書く力を高めることができた。	全員に目標達成させるためのヒントカードの工夫や机間指導での的確な見取りと支援が十分でなかった。
普及・啓発	研修を通して，市内の先生方に行動面への指導・支援の方法を紹介することができた。（コミック会話など）	特別支援教育の考えや本校での取組について，保護者や地域に発信する機会が少なかった。

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	• 「授業のＵＤ化（焦点化・視覚化・共有化）」「教室環境のＵＤ化」「人的環境のＵＤ化」の３つのユニバーサルデザインに整理し，校内での取組を進める。
普及・啓発	• ホームページや学校便り等で特別支援教育の考えや取組を保護者・地域に伝える。 • 学習面や行動面への指導・支援の方法について，市教委と連携し，研修を通して市内の学校に普及する。